

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分
電話 56-3131 (呼)・有線2190 (呼)
- 立科中学校/午後2時～午後5時
電話 56-1076 (呼)・有線2251 (呼)
- 立科町児童館/
午前 11時40分～午後1時30分
電話 56-0303 (直通)
有線 8889 (直通)

※予約をされる方は児童館または小・中学校の
教頭先生へご連絡をお願いします。

謝るなら、いつでもおいで

～ 佐世保小6同級生殺害事件と 飯田高等学校生徒刺殺事件

検証委員会の「提言」～

立科町教育相談員 岩上起美男

平成4年1月10日の昼休み、長野県立飯田高等学校2年の男子生徒が、生物教室に4人の生徒と共に侵入してきた上級生に、包丁で左背部及び大腿部などを刺され、出血死する、というまことに痛ましい事件が起きました。

長野県教育委員会は、このような学校における取り返しのつかない事件を繰り返さないために、「飯田高等学校生徒刺殺事件検証委員会」(以下「検証委員会」)を設置しました。

平成15年3月、「検証委員会」が、「児童・生徒が安心してのびのびと学び、成長できる学校づくり」及び「不幸にして起こり得る事故や事件に対する学校の誠意ある対応」のための「提言」をまとめました。

A4判用紙20数ページに及ぶ「提言」と、同年5月、長野県総合教育センターで行われた委員長からの「報告」を受け、当時、中学校教育現場で悪戦苦闘していた老生は、この教訓を自校の教育活動の基軸に据えなければならぬと強く思いました。「提言」には、失敗事例に学ぶ姿勢で、学校教育の在るべき姿や生徒指導の基本、被害者家族の支援、突発的な重大事件が発生した際に学校が陥りがちな悪しき対応など、痛ましく、苦しい「体験」に基づいた教訓が網羅されています。

被害者は悪くないという認識。被害者に光を当てた学校の指導・対応。お詫びと謝罪、慰謝の違い。加害生徒が自己肯定感を抱けるようになるための指導と支援。生徒誰もが、差別や暴力のない温かい雰囲気の中で、のびのびと安心して学び合える学校づくり。

このような「提言」が、今日の学校教育に脈々と伝わり、風化されることなく次の世代に伝承されることを願っていました。しかし、……。

平成16年6月1日の給食準備中、長崎県佐世保市立大久保小学校の6年生女児が、同級生女児からカッターナイフで首や腕などを切られ、死亡しました。安全で、児童・生徒の成長を促す場であるべき学校で、凄惨な殺人事件が再び起こってしまったのです。

事件当時、中学校で、次々に起こる生徒指導上の問題に対して、前述の「提言」を支えに何とか踏ん張っていた老生にとつて、この事件は極めてショックングでした。どこの学校でも起こり得る事件であり、現在奉職している中学校も決して例外ではない、という危機感を覚えたのです。

事件から10年経たず、この事件のルポルタージュ「謝るなら、いつでもおいで」(川名壮志著・集英社発行)が、

当時、被害女児の父親(毎日新聞佐世保支局長)と同じ職場に勤めていた入社4年目の記者によって著され、出版されました。

そこで、昨秋、この本を、胸を締め付けられるような重苦しさを感しながら読み返し、何度も読み返しました。

4人だけの職場。1階が駐車場、2階が職場、そして、3階が支局長住宅という3階建ての社屋。その小さな支局で、著者は、女児と支局長、中3の次兄(母親は3年前、癌で亡くなられ、長兄は徳島の大学に通っていたそうです。)と家族のように生活していました。のんびりとした雰囲気にも包まれた支局長暮らしの日常に、あまりに突然、あまりにも酷い事件が起こったのです。

この本は、著者が、遺族とマスコミの狭間で、殺害された女児や遺族への思いと、「弩級のネタ」に対する新聞記者としての職責に悩み、葛藤しつつ取材し、書き綴った事件の「報告書」で、次のような、断じて風化させてはならない反省点や問題点を指摘しています。

○「検証委員会」の「提言」が、被害者に光を当てることの大切さを説いているように、親も教師も、「被害者は悪くない」という当たり前のことを肝に銘じておかなければならない。「被害